別紙１－１

# １学年 保健体育科　学習指導案

| 単元･題材名（授業名） | 器械運動（マット運動） | 生　徒 | 1学年　生徒 23 名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 体育館 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月 29 日(月)5～6校時 | 指 導 者 | MT:山木　ST1:津村　ST2:内田 |

## １　授業のねらい

（単元の目標）

・基本的な回転技ができる。（知識・技能）

・発展技に挑戦することができる。（知識・技能）

・学習したことを基に自分で考えたプログラムを発表することができる。（思考・判断）

・安全に留意して行動することができる。（態度）

（本時の目標）

・学習したことを基に自分で考えたプログラムを発表することができる。

・安全に留意して行動することができる。

## ２　生徒について

・指示を聞いて各種運動を積極的に行うことができる。

・前転はおおむね全員ができるようになった。

・基本的な回転技（前転、開脚前転、後転、開脚後転、側方倒立回転）については、自己の課題を理解して練習に取り組むことができる。

・教師や仲間からのアドバイスを素直に受け入れて自分の技を高めようと取り組むことができる生徒が多い。

## ３　指導計画

第１回　10 月　1 日（月）: 基本的な回転技ができる第 1 回目

第２回　10 月 15 日（月）: 基本的な回転技ができる第 2 回目（発展技に挑戦することができる）

第３回　10 月 22 日（月）: 学習したことを基に自分で考えたプログラムを発表する第１回目

第４回　10 月 29 日（月）: 学習したことを基に自分で考えたプログラムを発表する第２回目（本時）

## ４　「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

①　主体的な学びについて

・自己の課題を理解したり、自ら判断したりして、練習に取り組めるよう課題ごと（技ごと）の練習の場を設定する。

・良い点は褒め、意欲的に練習に取り組めるよう言葉掛けを行う。

②　対話的な学びについて

・仲間同士でグループごとにアドバイスをし合い、アドバイスを意識して練習や発表に取り組めるようワークシートを使用して意識付けを行う。

③　深い学びについて

・アドバイスする生徒もされる生徒もともに基本的な回転技の技能のポイントを理解できるよう繰り返し指導する。（一斉指導と個別指導）

・仲間のアドバイスを参考にして、自分で考えたプログラムを発表できる場を設定する。

## ５　期待できる指導の効果

・体力、柔軟性、巧緻性の向上
・コミュニケーション能力の向上

※ 授業を振り返って

自己の課題を理解したり、自ら判断したりして、練習に取り組めるよう課題ごと（技ごと）の練習の場を設定して主体的な学びとなるよう工夫した。仲間同士でグループごとにアドバイスをし合い、アドバイスを意識して練習や発表に取り組めるようワークシートを使用して意識付けを行った。生徒は、技能のポイントを確認しながら互いにアドバイスをし合って練習に取り組むことができた。運動（練習）を行う場面（運動量）を確保するため、対話的な学びについて十分な時間を確保できなかったことは反省点である。

別紙１－２

## ６　本時の展開

| | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の活動 | | 教材教具 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ＭＴ | ＳＴ | |
| 導入<br>20 分 | ・挨拶<br><br><br>・本時の学習内容<br>・準備体操<br>・柔軟体操<br>・補強運動<br>・準備<br>（マット設置） | ・日直が挨拶する。<br><br><br>・本時の学習内容を確認する<br><br>・ラジオ体操、準備体操をする。<br>・ペアで柔軟体操をする。<br>・補強運動をする。<br>・全員で協力してマットを設置する。 | ・整列、姿勢を確認し、挨拶をする。<br>・健康確認をする。<br>・本時の学習内容を説明する。<br><br>・ラジオ体操、準備体操の指示<br>・柔軟体操の指示<br>・補強運動の指示<br>・マットの設置指示 | ・一緒に挨拶をする。<br><br><br>・個別に説明が必要な生徒に本時の学習内容を説明、確認する。<br><br>・適宜補助に入る。 | ・カラーコーン |
| 展開<br>70 分 | ・基本の回転技の確認<br><br><br>・課題別練習<br><br><br>・発表技の練習<br><br><br><br>・演技の発表 | ・基本の回転技を確認する。<br>前転、開脚前転、後転、開脚後転側方倒立回転<br><br>・自己課題別の練習をする。<br>※アドバイスをし合い、ワークシートにまとめる。<br>・発表する技を練習する。<br>※演技構成を考え、ワークシートにまとめる。<br><br>・基本の回転技を発表する。 | ・基本の回転技のポイントを説明する。<br>前転、開脚前転、後転、開脚後転側方倒立回転<br>・自己の課題別練習を指示する。<br>・巡回して個別に指導する。<br><br>・発表する技の練習を指示する。<br>・巡回して個別に指導する。<br><br>・演技の発表会を進める。 | ・巡回して個別に指導する。<br>（動画撮影など）<br><br><br>・巡回して個別に指導する。<br>（動画撮影など）<br>・発表会を参観する。 | ・マット４枚<br>（ロング２枚）<br>（ショート２枚）<br><br><br>・ビデオ<br>・テレビ<br>・ワークシート |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ※アドバイスを受けたこと、意識するところを発表してから演技に入る。 | | | |
| 整理<br>10分 | ・片付け<br>・整理体操<br>・まとめ<br>・挨拶 | ・全員で協力してマットを片付ける。<br>・整理体操をする。<br>・本時のまとめを聞き、振り返る。<br>・日直が挨拶をする。 | ・片付けを指示する。<br>・整理体操を指示する。<br>・本時のまとめをする。<br>・整列、姿勢を確認し、挨拶をする。 | ・適宜補助に入る。<br>・一緒に挨拶をする。 | |

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

別紙２

# 実践レポート（ＭＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | 器械運動（マット運動） | 生　徒 | 1学年　生徒 23 名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 体育館 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月 29 日(月)5～6校時 | 指 導 者 | MT:山木　ST1:津村　ST2:内田 |

① 主体的な学びについて

自己の課題を理解したり、自ら判断したりして、練習に取り組めるよう課題ごと（技ごと）の練習の場を設定して主体的な学びとなるよう工夫した。生徒は、自己の課題（基本の回転技）を適正に判断して練習に取り組むことができた。また、良い点は褒め、意欲的に練習に取り組めるよう言葉掛けを行うことによって、課題の克服に主体的、意欲的に取り組む姿が見られた。

② 対話的な学びについて

仲間同士でグループごとにアドバイスをし合い、アドバイスを意識して練習や発表に取り組めるようワークシートを使用して意識付けを行った。生徒は、技能のポイントを確認しながら互いにアドバイスをし合って練習に取り組むことができた。運動（練習）を行う場面（運動量）を確保するため、対話的な学びについて十分な時間を確保できなかったことは反省点である。より対話的な学びを深めるためには時間や場面を多く設定するべきであった。

③ 深い学びについて

アドバイスする生徒もされる生徒もともに基本的な回転技の技能のポイントを理解できるよう繰り返し指導を行った。(一斉指導と個別指導）また、仲間のアドバイスを参考にして、自分で考えたプログラムを発表できる場を設定し、自己の体力面での課題や技能（基本の回転技）について深く考える様子が見られた。

④ ＳＴの活用の仕方について

ST には主に各技（前転、開脚前転・後転、開脚後転・側方倒立回転、発展技）の個別指導をしていただいた。技能のポイントを繰り返し確認することで仲間からのアドバイスと合わせて深い学びとなるよう分担して個別指導の場面を設定した。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | 器械体操（マット運動） | 生　徒 | 1学年　生徒23名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 体育館 |
| 日　時 | 平成 30 年 11 月 26 日(月)5～6校時 | 指 導 者 | MT:山木　ST1:津村 ST2:内田<br>ST3:高山 |

① 主体的な学びについて

提示された技を自分で選択して取り組むことができていた。できる技を選択できるので意欲的に取り組んでいた。指示も明確で練習時間を多めに確保していたため、発表までに余裕をもって取り組むことができていた。

② 対話的な学びについて

仲間のアドバイスの時間を設けて、良い点やヒントをもらい、技のコツを身に付けることができていた。

③ 深い学びについて

ビデオを使用したことで、生徒がイメージをつかむことができていた。

④ ＳＴとしての動き方について

３つのグループを巡回しながら助言し、工夫して取り組めるように努めたが、適切な助言ができたか不安が残った。また、質問される前に助言してしまうことがあり、支援しすぎた場面があり反省点として次回に生かす。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 単元･題材名（授業名） | 器械体操（マット運動） | 生　　徒 | 1学年　生徒23名 |
| | | 場　　所 | 体育館 |
| 日　　時 | 平成30年10月29日(月)5～6校時 | 指 導 者 | MT:山木　ST1:津村　ST2:内田<br>ST3:高山 |

① 主体的な学びについて

全３回の授業では、８種類ある各種目に意欲的に自分の課題に向けて練習に取り組んでいた。器械体操は特に自分の体の動き（手足の伸び等）が感覚として分かりづらいため、一部映像を活用し確認しながら取り組んだ。しかし、全ての練習場所で活用することができなかったので、理解度や意欲を更に向上させるためにも工夫が必要と感じた。

② 対話的な学びについて

練習の中で指導者からのアドバイスを聞き改善できるように練習する場面が見られたが、仲間やグループで相談したり確認したりする場面を作ると良いと感じた。そのためには、基準となる手本（映像）を用いると、仲間同士の中でも指摘し合い、練習に取り組める環境ができると感じた。

③ 深い学びについて

１年生段階の学習では、義務教育の中で習得してきたことに、今回学んだことをプラスし表現する学習だったが、更に深い学びにつながるよう各種目の動きを細分化（得点化）するなど具体的にするとことで技術や意欲の向上ができると感じた。

④ ＳＴとしての動き方について

器械体操は回転する途中で止めることが難しいため、指導者の演示や事後に説明することになるので、生徒に応じた言葉や見本で伝えることの難しさを感じた。

別紙４

# 授業参観者アンケート

| |
|---|
| 授業者：　山木　謙 |
| 「主体的・対話的で深い学び」についての評価 |
| ○１学年より<br>・生徒が見通しをもって粘り強く練習に取り組めており、主体的な学びができていたと思います。<br>・一部の生徒ですが、友達の助言を聞き入れて、練習に反映させていました。技の取り組み方の考えを広げ、深めることができており、対話的な学習ができていたと思います。<br>・技と技の組み合わせを自分の技術と照らし合わせながら深く考え、表現することができており、深い学びができていたのではないかと思います。<br>「主体的な学び」<br>・生徒自らがより高難度な技を自分で選択し、挑戦しようとする姿が見られました。<br>・生徒全員が道具の設置、片付けに協力している様子が見られました。また、一部の生徒は自分のできることを探している様子が見られました。<br>「対話的な学び」<br>・生徒同士のアドバイスより教師が生徒にアドバイスを送っている姿の方が多く見られました。例えば仲間からアドバイスを確実にもらうのであれば、練習時間やアドバイスをもらう時間を明確にすることによってより確実に行うことができたのではないかと思いました。<br>「深い学び」<br>・状況によって教師が生徒を個別に呼び、ビデオ撮影や動画で自分の姿を見せることで、自分のできていることやできていないことをより正確に伝えることができたと思います。<br><br>○２学年より<br>・生徒同士でアドバイスしている様子は見られませんでした。<br>・生徒自ら、先生に上達する方法を聞いていました。<br><br>○３学年より<br>・ワークシートにまとめることで、生徒自身が課題とする技に気付き、改善しようとする姿が見られました。<br>・グループごとにアドバイスする機会を設けて、体の動きがどうなっているかを客観視することができていました。<br>「主体的な学び」<br>取り組む種目の練習をした後に、気付いた点やアドバイスなどをワークシートに記入して、課題の達成度合いを確認していました。<br>「対話的な学び」<br>見学していた生徒が「もっと勢いをつけて」や、演技構成の順序を確認してもらおうとして言葉を掛ける場面が見られました。その他には、練習の順番を待っている間に何人かの生徒がアドバイスをし合っている場面が見られたが、多くの生徒は自分の課題種目の練習に取り組むことに集中している場面が多かった。 |

「深い学び」

生徒が仲間からのアドバイスや仲間の学びを見聞きして何かに気付いたときに、「もっと知りたい」「もっと工夫したい」などの意欲をもつことで深い学びにたどり着くものだと理解してます。

生徒の気付きを引き出すことのできる方策が必要になるのではないかと思います。自分のできる技、もう少しで上手になる技をもつ生徒が一所懸命でその技を練習していたのは良い取り組みであるが、仲間の動きに気を配る余裕があれば良かったと感じました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、ＭＴ・ＳＴの動きについてなど）

○１学年より

・今回使用したワークシートですが、生徒同士でアドバイスや意識したことを書けるようになっていました。しかし、それを実践したことによる結果を書く欄がなかったため、生徒がアドバイスをもらい、「このアドバイスを意識したことで、こういった結果になった。」という実感が沸きづらかったのではないかと感じたため、ワークシートに欄を追加できればより良い成果が出たと思いました。

・マットが体育館だけではなく、格技場にもあったため、事前に確認しておく必要があったと思いました。

・運動を苦手にしている生徒にとっても取り組みやすい活動内容だったと思いました。

○２学年より

・MT、ST の生徒に対して前向きな言葉掛けが良かったです。

・模範演技を実演ではなく、動画で確認することで何度も見たり、途中で止めたりすることもできて良いと思いました。

○３学年より

・ウォーミングアップから ST の声掛けが適切に行われており、生徒が活動しやすそうに見えました。

・側転のアドバイスに際に、手を置く位置を手のひらサイズの用紙を使って分かりやすく教えていました。

・視覚教材を用いることで、指導と振り返りの両方を効率的に行うことができていました。

・マット運動や跳び箱運動などに代表される器械運動を題材にして「主体的・対話的で深い学び」を取り入れて授業を進めようとするとき、アドバイスしたりそれを受け入れたりする仲間の間には取り組む技をどのくらい理解しているのか、仲間の動きをアドバイスできるだけの能力が必要だと思います。

・器械運動の授業では、生徒はできる技やもう少しで今よりも上手にできそうな技に対して頑張って取り組もうとしている場面が多かったです。しかし、自分の事に集中する時間が多く、仲間の動きに対して気を配る余裕をもつのが非常に困難な状況であったと感じました。

・仲間のアドバイスや言葉を聞いて取り入れる授業を展開させるためには、ビデオや PC などを利用して動画を簡単に記録し、それを何度も見直す環境を整えていくのが近道であると考えます。

別紙１－１

# ２学年 保健体育科　学習指導案

| 単元･題材名（授業名） | 器械運動「マット運動」 | 生　徒 | 2学年　生徒 22 名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 体育館 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月 16 日(火)5～6校時 | 指 導 者 | MT:中市 ST1:海田 ST2:住谷<br>ST3:村瀬 ST4:山田 ST5:金子 |

## １　授業のねらい

（単元の目標）

・基本的な回転技ができる。

・発展技に挑戦することができる

・学習したことを基に、自分で考えたプログラムを発表することができる。

・安全に留意して行動することができる。

（本時の目標）

・体の細部の伸びを意識した回転技や発展技ができる。

・自分の演技を動画で確認し、改善点を見つけることができる。

## ２　生徒について

・マット運動に興味があり、積極的に取り組むことができる生徒が多数いる。

・基本的な回転技を課題としている生徒と、容易にできる生徒が混在している。

## ３　指導計画

第１回　10 月　9 日　：　得意な技、不得意な技を見極めよう

第２回　10 月 16 日　：　不得意な技を改善しよう

## ４　「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

①　主体的な学びについて

・前回の授業で自分が不得意だと感じた技を重点的に練習する。

・自分の技を動画で確認し、主体的に改善しようとする。

②　対話的な学びについて

・動画を仲間と一緒に確認し、客観的な意見を聞いて改善する。

・練習後、技の中で良くなった箇所を仲間同士で伝え合う。

③　深い学びについて

・運動において、自分のイメージと実際の動きには違いがあることを知る。

・以前、総合的な学習の時間で取り組んだ、進路の学習での「他者評価」と関連させ、「自分のことを客観的に見る重要性」を生徒に感じさせ、今後の学校生活につなげさせていく。

## ５　期待できる指導の効果

・自分の技を客観的に見ることで、改善する箇所を明確にして取り組むことができる。
・動画を使用することで、仲間同士の対話が活発になることが期待される。
・客観的に自分を見る経験をすることで、進路の考え方にも好影響が期待される。

※ 授業を振り返って

動画で自分の技を確認することで、客観的の技の完成度を判断し、修正箇所を明確にして学習に取り組むことができた。

動画機能を使用したことで、仲間との意見交換も活発となり、受動的ではなく主体的な姿が多く見られた。

進路の学習で行った「他者評価」とのつながりは授業のまとめで触れたが、短時間だったので深い学びとはならなかった。今後、他の授業と進路学習とのつながりを意識した横断的な指導を意識的に行っていく。

別紙１－２

## ６　本時の展開

| | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の活動 | | 教材教具他 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ＭＴ | ＳＴ | |
| 導入<br>25 分 | ・集合・整列・挨拶<br><br>・本時の流れを説明<br>・注意事項確認<br>・ラジオ体操<br><br>・ランニング<br><br>・２人１組でストレッチ | ・窯業科日直の号令のもと、挨拶をする。<br><br>・床に座り、MT の説明を聞く。<br>・床に座り、MT の説明を聞く。<br>・体育委員演示の基、ラジオ体操を行う。<br><br>・10 分間、ゆっくり走る。じわっと汗をかくイメージで走らせる。<br><br>・体育委員演示の基、ハムストリングスや股関節のストレッチを行う。 | ・日直に指示をし、気を付けの姿勢ができているか確認する。<br>・本時の学習内容を説明する。<br>・注意事項を再説明する。<br><br>・安全に留意して走るよう、言葉掛けをする。<br><br>・10 カウント、伸ばし続けるよう言葉掛けをする。 | ・正しく体操できているか確認し、その都度個別指導する。<br>・安全に留意して走るよう、個別にその都度指導する。<br><br>・正しく行えているか確認し、その都度個別指導を行う。 | ・カラーコーン×４ |
| 展開<br>55 分 | ・前回のワークシートの確認<br><br>・動画撮影についての確認 | ・前回のワークシートを確認し、本時で取り組む技を１～２種目選ぶ。<br>・前回記入した、本時で取り組む技の改善点を確認する。<br><br>・自分の技を客観的に確認し、改善の手立てとすることを確認する。<br>・ふざけて使用しないことを確認する。 | ・前回の授業を思い出し、少しでも苦手な技を改善するために本時があることを伝える。<br><br>＜ねらい＞<br>・自分の技を客観的に確認し、改善の手立てとする。<br>＜ルール＞<br>・技の撮影以外の目的で使用しない。<br>※以上の２点を確認させる。 | | ・マット４レーン分<br><br>・iPad などの端末機器×４ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | ・練習<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>・ワークシート記入<br><br><br><br>・発表 | ・各レーンに分かれて練習に取り組む。<br>・１レーンに１台端末機器を渡し、それぞれで撮影し合いながら練習に取り組んでいく。<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>・動画を見たり、仲間と教え合ったりして、意識して取り組んでいる箇所をワークシートにまとめる。<br><br><br>・１人１種目、各グループにおいて、自分が意識して取り組んでいるところ、改善点を述べた後、実際に取り組む。<br>＜１人２回＞ | ・動画を確認し、仲間と教え合いながら取り組むよう促す。<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>・具体的に書くよう促す。 | ・各グループに配置し、適宜個別指導に当たる。<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>・自分が担当したグループの生徒に対して、適宜個別に指導する。<br><br><br><br>・各グループの進行を行う。 | ステージ側から<br>１レーン　前転、後転<br>（村瀬）<br>２レーン　開脚前転・後転<br>（住谷）<br>３レーン　伸膝前転・後転<br>（海田）<br>４レーン　側方倒立回転<br>（山田、金子） |
| 整理<br>10 分 | ・後片付け<br><br>・ストレッチ<br><br>・まとめ、次回予告<br><br>・集合・整列・挨拶 | ・マットを器具庫に片付ける。<br><br>・手首や首を中心にストレッチを行う。<br><br>・MT の話を聞く。<br><br>・窯業科日直の号令の基、挨拶をする。 | ・安全に留意して片付けるよう促す。<br><br>・ゆっくり伸ばすよう促す。<br><br><br><br>・日直に指示をし、気を付けの姿勢ができているか確認する。 | ・安全に留意して片付けるよう促す。<br>・ゆっくり伸ばすよう促す。 | |

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

別紙２

# 実践レポート（ＭＴ用）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 単元･題材名（授業名） | 器械運動「マット運動」 | 生　徒 | 2学年　生徒20名 |
| | | 場　所 | 体育館 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月 16 日(木)5～6校時 | 指導者 | MT:中市　ST1:海田　ST2:田中<br>ST3:村瀬 |

① 主体的な学びについて

複数ある技の中で、一つに絞って練習したことで、目的意識が生まれ、集中が持続したと考える。その結果、他者に任せるのではなく、「主体的」に自分が選んだ技を最後まで取り組むことができた。

動画で自分の技を確認したことにより、改善点が明確になり、意欲的に取り組むことができた。

② 対話的な学びについて

最初は動画を見ることだけに集中していたが、動画を使って仲間と改善点を話し合うことを口頭で伝えたことで話し合いが活発化し、意見を聞き合う姿が見られた。

授業終盤の発表会後、仲間同士で評価し合う場を設定したことで、お互いに改善した点を評価し合った。また、評価し合うことで、生徒一人一人の充実感と達成感も伺えた。

③ 深い学びについて

動画を見たことで、自分のイメージと実際の動きの違いに気付くことができた。

授業終盤のまとめで上記の内容を話したが、その感想を記入できる教材を用意していなく、生徒一人一人が感じたことを確認することができなかった。

④ ＳＴの活用の仕方について

実施する技ごとにグループ化し、それぞれ ST１名を配置したことで、生徒一人一人の目標に合った取り組みができた。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | 器械運動「マット運動」 | 生　　徒 | 2学年　生徒20名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　　所 | 体育館 |
| 日　　時 | 平成30年10月16日(火)5～6校時 | 指 導 者 | MT:中市　ST1:海田　ST2:住谷<br>ST3:村瀬　ST4:田中 |

① 主体的な学びについて

動画を通して自分の姿を見ることで、自分の体の動かし方を客観的に見ることができた。同じグループの生徒からもアドバイスがあり、それを受けて積極的に、改善しようと取り組む姿が見られたので、主体的な学びにつながったと考えて良い。しかし、動画による体の動かし方を、修正につなげるまでがスムーズにできる生徒とできない生徒がいるため、教員が介入して支援する必要性も感じた。

② 対話的な学びについて

動画を通してお互いに、できている点と改善点をリアルタイムで伝えることができていた。グループ内で、声を掛け合う場面も多くみられ、お互い褒め合う言葉やアドバイスが聞かれる場面が多かった。

③ 深い学びについて

自分自身の技量をいかにしてあげるか､に偏り､進路の意識までには深められなかったように感じた。しかし、進路に関わる対人コミュニケーションの視点で考えると、相手にどう伝えるかや褒めること、アドバイスするときの言葉掛けの良いタイミングなどを間接的に学ぶ場になっていたので、今後、体育以外の場面で今回の経験が活かせるように、指導者側で指導場面を工夫することが必要だと感じた。この時間だけではなく、今後の取り組み方の方が大切なのではないかと感じた。

④ ＳＴとしての動き方について

当日、補欠で入り、事前の打ち合わせに入っておらず、本時の指導案で流れをつかんで参加した。どのように動いたら良いか分からない場面もあったが、生徒の学びやすさを考えて接するように心掛けた。動画についてはオンデマンドで見たいところをコマ送りやスロー再生、逆コマ送り再生などで集中的に振り返りしやすい特性があり、体育等ではそれを生かした効果的な指導が期待できる。その場で繰り返し見直せるというのは、学習効果も高いと考える。また、動画撮影に当たっては、生徒が課題を客観的に捉えられるようにすべきであることと、教師側で指導の意図をもって撮影し、再生する必要があることを考えると、指導者側で撮影するのが良いと考える。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 単元･題材名<br>（授業名） | 器械運動「マット運動」 | 生　　徒 | 2学年　生徒20名 |
| | | 場　　所 | 体育館 |
| 日　　時 | 平成30年10月16日(木)5～6校時 | 指 導 者 | MT:中市　ST1:海田　ST2:田中<br>ST3:村瀬 |

①主体的な学びについて

生徒自身が自分の苦手と感じる種目を選択して、挑戦できたことは主体的に取り組むことにつなげることができたと感じる。ICT を利用して、自分の演技を動画で確認することでフォームなどを確認することができた。しかし、フォームの改善までには至らなかった。

②対話的な学びについて

動画を見ている中で、気が付いたことを述べる生徒もいたが、あまり述べない生徒もいた。どこを改善すれば良いか理解できていないことがあると感じた。また、この動画を見る時間の中で発言の条件付けなどを設ける必要もあった。

③深い学びについて

自分がイメージして行っていた動きと実際の自分の動きには違いがあることを知ることができた。しかし、これを学校生活の中でも同様なことが起きることにはつなげることはできていない。

④ＳＴとしての動き方について

生徒が演技をした後に、言葉によるフィードバックを行ったが、理解できていない生徒もいたように感じる。客観的に自分の演技がイメージできないため、その場で動画を見せるなどの工夫も必要であると感じた。そうなると空白の時間ができてしまうので、MT などと進め方なども含めて協議が必要であると感じた。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | 器械運動「マット運動」 | 生　徒 | 2学年　生徒20名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 体育館 |
| 日　時 | 平成30年10月16日(火)5～6校時 | 指導者 | MT:中市　ST1:海田　ST2:田中<br>ST3:村瀬 |

①主体的な学びについて

自分の姿の動画を見ることで、自分がどのように体を動かしているかを客観的に見ることができ、積極的に技の改善のために練習する姿が見られた。特に意欲的な生徒は、何度も練習を重ね、少しずつできるようになる喜びを実感していたように感じた。客観的に自分を見ることで、学ぶ意欲につながったと考えられるため、今後、自分の行動を振り返るための手段として活用していきたい。

②対話的な学びについて

動画をお互いに取り合うことで、うまくできている点や改善点を積極的に伝えることができていた。グループの人数が少なかったこともあり、声を掛け合う機会が多く、少しでも成長する姿が見えると、お互いに褒め合うことが多かった。しかし、相手の改善点を伝えるときには、適切な言葉遣いができていない生徒もいるため、伝え方を改めて指導する必要があると感じた。今後はお互いを評価する機会があるときには、言葉遣いの注意点を伝えた上で、活動をさせていく。

③深い学びについて

客観視することと他者評価、そしてこの内容を進路につなげるということであったが、理解できた生徒は少なかったように感じた。あらかじめ、動画を撮って自分を見ることの意図を伝えておらず、自分の技を改善するという目的のみを意識してしまった。この実践を行う時期に、朝のホームルームやホームルーム活動、作業学習などで客観視することを統一して指導することで、より効果があったと考える。今後は、体育で行った客観的に見るという視点を生かして、自分の行動を振り返る機会を作っていきたい。

④ＳＴとしての動き方について

打ち合わせが少なく、どのように動くべきか迷うところがあった。実際に、タブレットを使用して撮影を行ったが、生徒に行わせているグループもあれば、ST がそのまま撮っているグループもあり、打ち合わせと確認不足があると感じた。具体的に指導の流れが不明なまま、授業に臨んでしまった部分があるため、不明な点は MT にすぐに確認するように心掛けていきたい。

別紙４

# 授業参観者アンケート

授業者：中市　浩史

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○１学年より

・生徒同士で助言し合うという活動はとても良かったです。しかし、苦手な生徒同士が集まっていたため、どのように体を動かすとできるようになるのか、どのような助言をすると良いのかなど答えが分からず、生徒同士の教え合いをすることが難しかったように感じました。

・動画撮影を行い、演技を見ることは振り返りをする上で効果的でした。映像を仲間同士で確認し、仲間の動きを見て助言するようにすることで、映像を止めたり、スローにしながら見たりすることでより実りある教え合いになるように感じました。

・動画を観て意見を出し合うほど技術的な理解度は高くないです。

・具体的なアドバイスをできる人が少ない。＝大人間で共有できていませんでした。

・柔軟性の乏しさが、様々な動きの妨げになっていました。だからこそ体操での一つ一つの動きの大切さを伝えていくべきだと思います。足首の柔軟性は前転に直結、屈伸、伸脚でかかとをつける必要性につながると思います。

⇒このようなことが、「深い学び」につながってくると思います。知ること、気付くこと

・動画を撮り、客観的に自分の動きを観察する機会はとても大切なので、自分自身も取り入れていきたいと思います。

・側方倒立回転は、体から遠くに手を置いてしまうと、力が伝わらないので勢いがなくなっていました。

・否定や言い訳が多く見られました。人の意見を素直に聞き入れる態度が備わっていないと思います。主体的・対話的な状況を作りにくい環境にあると思います。

・自分で動くよりも指示を待ってから行動に移す学年になっていると思います。

○２学年より

・前回の授業で見極めた技を動画によって自分のイメージと違うところを確認できたことが良かった。

・他者の動画を見てどこが良いか悪いか話し合っている様子が良かったです。しかし、グループによっては、自分の動画しか見ていない生徒もいました。

・授業の最後に進路の学習の他者評価、客観的に見る重要性の部分とつなげていく説明があったが、あの内容は授業の最初の段階で伝え、意識させて授業に取り組んだ方が良かったのではないかと感じました。

・４つのコースを用意したことで、自分で練習したい技を選択することができました。

・動画を用いた指導によって、自分のイメージと実際の動きには違いがあることを言葉だけではなく視覚でも捉えることができ、指導者や仲間の助言を素直に聞き入れる様子が見られた。自ら改善しようと意欲的に取り組んでいた。

・仲間同士で「おしい。」「まっすぐね。」など声を掛けることができていました。できたときに称賛する様子もあり、良い雰囲気の中で、落ち着いて活動していました。

○３学年より
・見ている生徒がアドバイスの言葉掛けをしたり、技のできている生徒が教えてあげたりということが見られて、主体的・対話的に行われていました。また、動画を見ることで、体の動きを改善しようとする意識を多くの生徒がもてたように感じました。
「主体的な学び」
・主体的かつとても楽しそうに活動していました。MT の楽しい雰囲気作りが、より主体的にさせていたと感じました。
「対話的な学び」
・練習中、仲間同士で助け合いながら、安全に取り組めていました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、ＭＴ・ＳＴの動きについてなど）

○１学年より
・生徒が挨拶をする際に、「気を付け。」で確認することなく、流れでしているところがあり、メリハリがないように感じました。
・体育座りをしていない生徒がいたが、指導している場面が少なかったです。
・ST がそろうまでに時間がかかっていました。MT の判断で、途中で ST を補充したのは良かったです。
・チャイムが鳴ってから整列していました。→時間の意識が乏しい印象を受けました。
・座り方、視線、向きなど話を聞く態度の改善が必要であると感じました。
・「確実に行う」習慣が身に付いてないと思います。それは体操に顕著に表れていました。
・ランニングを５分に変更した意図は何だったのかを説明したほうが良いと思います。
・時計を付けさせてマット運動をする意図を説明した方が良いと思います。
・段階的な練習を行うことでできるようになる生徒は多数いました。
・ST がいないことが分かっている方の名前が入っていました。
・ワークシートの活用の仕方に工夫が必要であると思います。改善すべき点を具現化することでシートもうまく活用できるし、成功にもつながるのではないかと思います。

○２学年より
・各技の指導を行うにあたって、それぞれの技のコツや改善点の基準のようなものが ST の先生も指導しやすいのではないかと感じました。（手のつく位置や足の開くタイミングなど）
・タブレットで動画撮影を指導者が行っていました。撮影に手を取られ、生徒の把握、技の指導に対して不十分だったのではないかと感じました。順番を待っている生徒の座り方が悪かったり、手持ちぶさた感がある生徒も見られたので動画の撮影を生徒に順番に担当させたり、他の生徒の技を見て改善点はどこなのか考えさせて言い合ったり、それぞれの役割をもっと明確にしても良いのではと感じました。
・動画を用いたことで、実際の動きの流れを見ながら指導することができました。スロー再生で細かく身体の細部の伸びを確認することができました。
・ST によって、撮影後の指導の流れがそれぞれであったように見えた。今回の内容だと ST にも知識や技術が必要だと感じましたが、事前にそれぞれの技の指導ポイントなどを共有し、生徒にも MT から伝えると良いと感じました。（もし前時に伝えているのであれば、改めて確認するなど）
・練習後も最初とあまり変化のない生徒がいました。技がうまくできなくてもここは頑張ろうという点（例えば、必ず○回以上は練習する、発表時に名前言うときには大きな声を出す、最後はポーズを決

める、仲間が発表したら必ず拍手をする、など実態に応じたもの）をもう少し設定しても良いと感じました。

○３学年より

・説明する際に、生徒たちの姿勢や目線がしっかりと整ってから始めているところが良かったです。(落ち着いた授業でした。)

・MT がすべてのグループを見ながら、落ち着いて指導することができていました。(ST に頼りすぎないところが良かったです。)

・どの生徒も苦手な技にも積極的に授業に参加できていたのは指導の継続によるものと思います。

別紙１－１

# １学年 窯業科 作業学習　学習指導案

| 単元･題材名（授業名） | オリジナル粘土と釉薬の作成 | 生　徒 | 窯業科1学年　生徒8名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業実習室 |
| 日　時 | 平成 30 年 11 月 30 日(金)3～4校時 | 指 導 者 | MT:内田 ST1:山本 ST2:穴田 |

## １　授業のねらい

（単元の目標）

・土と粘土の違いを理解し採取した土から粘土を精製することができる。

・釉薬の構造と特徴を理解し地元の素材からオリジナルの釉薬を作ることができる。

（本時の目標）

・粘土製造Ａ班：荒土を水簸（すいひ）させ砂やゴミを取り除き粘土を作ることができる。

・釉薬製造Ｂ班：地元の藁を水簸（漉し）釉薬の原料を作ることができる。

・釉薬構想Ｃ班：テスト用の釉薬となる原料の量を計算しテスト釉薬を作ることができる。
地元や学校を意識した名前を考えることができる。

## ２　生徒について

・皿づくりに興味をもち意欲的に取り組むことができる。

・現時点では技術的に大きな差は無い。

・準備や片付け、清掃では核となり声を出し活動する意識や場面が少ない。

## ３　指導計画

第１回　11 月 29 日　：土と粘土の違いや釉薬の構造について

第２回　11 月 30 日　：粘土と藁の水簸（すいひ）と釉薬の調合（本時）

第３回　12 月　５日　：皿づくり①

第４回　12 月 12 日　：皿づくり②

## ４　「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

①　主体的な学びについて

・粘土や釉薬の基礎（原理）を知ることで興味をもたせる。

②　対話的な学びについて

・準備する物や手順を伝え班で協力して行うよう設定する。

・３班に分けリーダーを中心に分からないことは、班内で確認と予想を立てさせる。

③　深い学びについて

・身近にある素材を利用し、自分たちで釉薬や粘土を作ることができることに気付かせる。

・学校の特色（地元ブランド）となり無二の色や粘土となるよう位置付けることができる。

## ５　期待できる指導の効果

・地道に時間を掛け、物を作る（物が作られている）過程や考え方が身に付けられる。

・物を大切に扱ったり、協力したりして一つの物を作り出す大切さに気付くことができる。

※ 授業を振り返って

これまでの授業では釉薬班や粘土班のように、ほとんど取り組んだことのない内容であったため、見通しという点では難しさが見られた。そのため、デザイン班の名前を考える所が厳しいと思い、前の時間にもう一つの釉薬前をみんなで考える活動を設けたことで見通しをもって取り組むことができた。今後、継続した活動をすることで経験値も広がりより見通しをもって取り組むことができるようにしていきたい。

協同学習という面では、テーマを意識しながら班でまとまりのある活動ができていた。また、活動した内容を発表することにも事前に時間を設けなくても発表することができるようになってきた。

別紙１－２

**６　本時の展開**　　＊水簸（すいひ）、泥漿（でいしょう）　＊シャモット（素焼きした粘土を砕いた粉）、ベントナイト（可塑性、粘性を高める粉）

| | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の活動 | | 教材教具 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ＭＴ | ＳＴ | |
| 導入<br>５分 | ・集合<br><br>・挨拶<br>・本時の学習内容について | ・エプロン、タオル、手洗いを済ませ集合する。<br>・日直が挨拶をする。<br>・本時の学習内容を確認する。 | ・服装や身だしなみを確認する。<br><br>・挨拶ができているか確認する。<br>・板書内容を説明し表情や視線を確認する。 | ・挨拶をする。<br>・本時の内容を確認する。<br>・生徒の様子観察を行う。 | |
| 展開<br>80 分 | A）水簸（粘土）班<br>（生徒A、生徒B、生徒C）<br>穴田 | ①前の時間に水簸した泥漿粘土１ｋｇに対しシャモット 20％（200ｇ）とベントナイト５％（50ｇ）を添加し、かくはん、石膏板で乾燥。<br>②バケツに水と原土を入れかくはんさせ水簸、＃60 のふるいでこし、更に＃80 のふるいでこしそのまま沈殿させるため寝かせる。<br>③①の石膏板で吸水した粘土をまとめ雑巾で包む。（匂い、肌触りを確認する） | ・必要な道具の確認を行う。<br>・シャモット、ベントナイトを添加する量を計算指示する。（数学応用）<br>・計量し粘土と混ぜよくかくはんできるまで確認する。<br>・石膏板に流す量を指示し見守る。<br>・ヘラを使ってまとめるよう指示する。 | | ・石膏板・棒<br>・ひしゃく<br>・シャモット<br>・ベントナイト<br>・はかり・雑巾<br>・ピッチャー<br>・かくはん機<br>・長靴 |
| | B）水簸（釉薬）班<br>（生徒D、生徒E、生徒F）<br>内田 | ①お湯が入ったタライに灰を入れ手で揉みながら砕く。<br>②繰り返しお湯を取り替える。<br>③灰を団子状にまとめ板に乗せ乾燥させる。 | ・灰をタライに静かに入れ揉み砕くよう指示する。<br>・灰汁を取り除きたいため、お湯を繰り返し捨てるよう指示する。 | ・別の班の様子を観察する。 | ・手袋・マスク<br>・バケツ・ふるい<br>・棒・ヘラ・長靴<br>・わら灰・長石<br>・色原料・モニター |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ・隙間をあけ乾燥できるように並べるよう指示する。<br>・崩れないように注意させる。 | | ・プリント<br>・長石・藁灰<br>・はかり・ボウル<br>・筆・辞書<br>・テストピース |
| | C）デザイン班<br>（生徒Ｆ、生徒Ｇ）<br>山本 | ①新釉薬の名前を考える。<br>②新釉薬の色を考える。<br>③新釉薬のテスト釉薬を作る。<br>・「今金」「学校」などをイメージし色や名前を考える。<br>（可能であれば名前の投票をする）<br>・Ａ班、Ｂ班が早く終わった場合はＣ班に合流する。<br>・考えた色からテスト釉薬４種類を作る。 | ・必要な道具の確認を行う。<br>・釉薬色見本や今金町の写真を参考にさせる。<br>・着色剤一覧を確認させる。<br>・時間次第でテスト釉薬づくりはカットする。<br>・Ａ班が考えた名前や色を説明させる。（時間がなければまとめで発表）<br>・Ａ班から調合する割合を説明させ調合するよう指示する。 | ・早バスの生徒Ｃと生徒Ｄの行動観察をする。<br>・生徒の表情を観察しながら見守り適宜補足する。 | |
| | ・片付け、清掃 | ・日直の指示により清掃を行う。各班で片付けを行い、全体の動きを確認・協力し全体の清掃を行う。 | ・生徒主導で清掃ができるように見守る。<br>・足拭きタオルの取り替え、雑巾を洗濯するよう指示する。 | ・生徒主導で清掃活動できるように見守る。 | ・ダスター<br>・水モップ<br>・雑巾<br>・掃除機 |
| 整理<br>15 分 | ・本時のまとめ<br>・挨拶 | ・本時の学習活動を班ごとに発表し振り返る。<br>・日誌に反省を記入する。<br>・日直が挨拶をする。 | ・本時の活動で分かったことや良かったことを確認し伝える。<br>・内容の点検を行う。<br>・身だしなみや姿勢を確認し挨拶をする。 | ・本時の活動で分かったことや良かったことを確認し伝える。<br>・巡回し内容の確認を行う。<br>・挨拶をする。 | |

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

別紙２

# 実践レポート（ＭＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | オリジナル粘土と釉薬の作成 | 生　徒 | 窯業科1学年　生徒8名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業実習室 |
| 日　時 | 平成 30 年 11 月 30 日(金)3～4校時 | 指導者 | MT:内田　ST1:山本　ST2:穴田 |

① 主体的な学びについて

今回の作業学習では、普段行っている皿づくりとは違い経験が無い道具を使い藁や粘土を精製することや地域の素材をイメージするなどの内容であったため、道具の操作など教師からの指示を受け取り組む場面が多く、主体的な活動にはならない部分があったが、２回目の授業では特に粘土班は道具の操作や計量など見通しをもって活動することができていた。

② 対話的な学びについて

デザイン班が、今金町のイメージや情報、学校の歴史やカラーなどといった視点から班内で協議しイメージを漢字や言葉に表現することができた。

前の授業では、３つの班に分けて別の釉薬の名前を考える学習を行ったが、それぞれの班で建設的なアイディアを出し合い、合計 22 個の候補が挙がり投票で名前を考えることができた。名前の意味や目的などが分かりやすく、見通しをもつことができたこともあり、対話的に活動できた。

③ 深い学びについて

今回の学習では、釉薬や粘土作り全ての工程や内容が盛り込まれている状況ではないため、生徒にはつながらない学習内容が存在していた。そのため、陶芸としての奥深さや楽しみにつなげるためにも、イメージした色に発色する釉薬の調合や粘土の製造を行い今後の興味関心につなげていきたい。また、数学で取り組んだ割合など作業学習の中で生かせるよう設定したことで、具体物を使った中で生かすこともできた。

④ ＳＴの活用の仕方について

作業と数学と同じ体制で行っていることもあり、課題や問題点など共有、確認しながら取り組むことができた。また、１年生は実習助手が曜日で変わることから生徒に関わる情報共有が十分でなかったりすることもあるため、事前の情報共有をしっかりしていきたい。

今回のような陶芸の基礎部分の内容は、普段の授業では出てこない所があるため、互いに知識を身に付けるためには良い機会だった。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | オリジナル粘土と釉薬の作成 | 生　徒 | 窯業科1学年　生徒8名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業作業室 |
| 日　時 | 平成 30 年 11 月 30 日(金)3～4校時 | 指導者 | MT:内田　ST1:山本　ST2:穴田 |

① 主体的な学びについて

自分たちで採取してきた荒土を水簸(すいひ)させ、ゴミを取り除いて粘土を作る工程を行うことによって、普段作業学習で使っている粘土がさまざまな工程を経てできていることや、自分たちの住んでいる身近な場所から取れた粘性土からでも、焼き物に必要な粘土を作ることができることを伝えながら、粘土の基礎についてより興味がもてるよう支援した。

② 対話的な学びについて

一通り必要な道具を説明したあとは、リーダーが中心となって仕事を分担し、必要な言葉掛けをしながら協力して準備をするよう説明した。既に水簸した液状の粘土を石膏版に載せる作業については、初めての作業ということもあり、効率よくできず時間がかかったが、協力しないとできない部分もあり、生徒同士でやりとりする場面が必然的に増えていたように思う。

③ 深い学びについて

身近にある土が、自分たちの作業によっても、焼き物の素材になることを実感することができた。出来上がった粘土が、普段使用している粘土と比較してどんな特徴があるか（におい、色、触った感触等）を確認し、他のグループの仲間たちにどう伝えたらよいか話し合いをさせ、考えを深められるようにした。

教科等横断的な部分としては、数学での割合を求める計算を利用した。成形するためには、粘土の骨組みとなるシャモットや可塑性、粘性を高めるベントナイト等の成分を追加する必要があることを前時で学習しており、粘土１ｋｇに対して 20%、10%の素材を加える時、それぞれ何ｇが必要かを確認しながら作業を進めさせた。

④ ＳＴとしての動き方について

シャモット、ベントナイトを計量して攪拌するまでに時間がかかってしまい、本来目標としていた水簸した土を漉す作業をするところまでに至らなかった。生徒の自主性を尊重するため、なるべくＳＴの言葉掛けは必要最低限にしたのだが、ST 側の時間の誘導は不足していた。

普段の皿作り作業では、仲間同士でのやりとりは比較的少ないが、このような小グループでの活動をすることによって、自分の役割が明確になり必然的に言葉掛けは多くなったように思う。

今後も１学年段階から、就労を見据え、仲間や上司とのやりとりを通して、その場に応じた適切なやりとりができるよう、多くの場面を設定し、実践をさせていきたい。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | オリジナル粘土と釉薬の作成 | 生　徒 | 窯業科1学年　生徒8名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業作業室 |
| 日　時 | 平成 30 年11月30日(金)3～4校時 | 指 導 者 | MT:内田　ST1:山本　ST2:穴田 |

① 主体的な学びについて

釉薬の色、名前を決める活動では、「なぜ」「どうして」を考えながら進めることができた。また今回、それを決めるにあたって今金町の歴史や特産なども伝え、それを意識しながら生徒達で理由まで考え、選択することができた。教師への問いかけもあったが、その都度、答えは出さずに自分たちで考えることができるようなアドバイスのみにとどめたことで、時間はかかったが、生徒２名で全て決めることができた。

② 対話的な学びについて

デザイン班の話し合いでは、生徒２名、教師１名で話し合いを進めていた。しかし、教師に頼ることが多かったため、話し合いの順番を考えさせ、話し合いを行った。その際に、進め方の方法を複数伝えたことで、生徒たちが自分たちで考えながら話し合いを進めることができたが、困ったことがあると、すぐに教師に頼ろうとする姿が多く見られたため、他の場面でも継続的に指導していく必要性があると感じた。

③ 深い学びについて

今回の学習では、今金をキーワードに粘土作りから釉薬の色決め、名前決めを行うことができた。また、事前にそれを生徒に伝えることで自分たちだけのオリジナル釉薬、粘土を作るための意識付けができたのではないかと考える。

④ ＳＴとしての動き方について

主にデザイン班の生徒の活動を見てきたが、生徒の表情ややりとりを見ながら生徒から相談があれば、それにアドバイスをするという形で行ってきた。しかし、生徒がそのアドバイス通りに行おうとしていることもあったため、伝え方をもう少し自分たちで考えられるように工夫する必要があった。

清掃では、次の仕事を自分で見つけて動くための言葉掛けを行った。実際に、次何をしていいのか分からず、手が止まっている生徒に対して、「今できる仕事はなに。」や「できる事を探そう。」と言葉掛けすることで、自分たちで探して仕事することができてきている。しかし、まだ言葉掛けがないとできない状態のため、自分たちで探して動くまでにはまだ時間がかかる。

別紙４

# 授業参観者アンケート

| |
|---|
| 授業者：内田　義文 |
| 「主体的・対話的で深い学び」についての評価 |
| ○１学年より<br>・今金の歴史や窯業の知識、理科の要素もあり教科等横断的な学習が実践されており、深い学びにつながっていました。<br>・本時では、粘土や釉薬などの材料から自分たちで作り、今後この材料を使用し、製品作りを行うという学習の設定により、製品が出来上がる仕組みを知ることで、今後の学習における主体性につながると感じる授業でした。<br>・同じグループ内で自然に役割分担や助け合いができており、対話的な学習になっていました。<br>・同じグループ内での対話はできていましたが、他のグループが何を作っているのか分かっていない生徒も少数ながらいました。ただ全員ではないので、生徒の実態差も大きく関わっているとも思います。また、今後の学習で展開していく部分なのかもしれませんが、他のグループとの対話の設定があるとより良いと感じました。<br><br>○２学年より<br>・「釉薬の名前の決定」というテーマ選択は、「名付け親」になることと、結果がすぐに見えることから、生徒の主体性を引き出す上で適切な学習内容だと思います。<br>・名付けの理由や作り方の説明など、苦労した点や相手に伝わりやすい説明のポイントを意識している雰囲気が、（たとえうまくできなくても）見ている方に伝わってくるようになると良いと思います。<br>・仲間が発表している間の他の生徒の姿勢や意識に課題があると感じました。<br>・釉薬の名前をペアで考えるときに、２人とも主体的で対話的に話し合うことができていました。<br><br>○３学年より<br>・オリジナルの粘土、釉薬を作るという目的がしっかりしていながら、効率良く役割が分担されていると思いました。<br>・全員で取り組んだことが最終的に一つになったときの達成感は大きいと感じました。<br>・作業中はどうしても黙ってしまいますが、役割を教師に言われなくても自分たちで分担していた所が良かったです。 |
| 授業を通しての感想（良かったところ・改善点、ＭＴ・ＳＴの動きについてなど） |
| ○１学年より<br>・生徒同士で自然と役割分担ができることや、声を掛け合えるところなどの積極性や主体性があることが、このクラスの良いところだと感じました。<br>・粘土班では、ST の必要最低限の助言で自分たちの主体性を生かしていたと思います。ただ、必要な場面では見極めて助言されていました。<br>・昨年、産業科の作業担をやりましたが、こういった視点で授業を考えたことがなかったのでとても勉強になりました。まず、このような授業を行うための専門的な知識が必要であることを改めて感じました。 |

・MT、ST ともに支援しすぎることなく授業を行っていました。生徒の積極性や主体的な行動や発言も、このような支援と見守りのバランスにあるのかなと勉強になりました。

○２学年より

・基本的に整理整頓はされていましたが、周囲のものを整理して、事故のないような職場環境作りの意識が必要と感じました。（使い終わってコンセントからプラグを外した状態で、攪拌（かくはん）機についた延長コードが床に放置されていました。足に引っかかって危ないなと感じました。）
・コンクリートの所（洗い場）に入る人は必ず長靴を履くなどの決まりがあっても良いと思いました。
・生徒が自分の役割しか理解していませんでした。
・全体の流れや粘土をどうやって作るか、できるかを理解できると良いと思いました。

○３学年より

・デザイン係の話し合いについては、イメージがもちにくいのか難しそうに見えました。
・生徒たちにとっても、日頃使っている材料がどのようにできているのかを考えることができる良い題材だと思いました。

別紙１－１

# ２学年 窯業科 作業学習　学習指導案

| 単元･題材名（授業名） | 学校祭の製品作り | 生　徒 | 窯業科2学年　生徒6名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業実習室 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月 11 日(木)5～6校時 | 指 導 者 | MT:初山　ST1:穴田 |

## １　授業のねらい

（単元の目標）

・学校祭で販売する製品を作ることができる。

・適切なやりとりをしながら、仲間と協力して作業を進めることができる。

（本時の目標）

・数値目標を意識して、製品作りを進めることができる。

・仲間に適切な声掛けをして、時間内に清掃を終わらせることができる。

## ２　生徒について

・適切なやりとりや言葉遣いについて意識して取り組んでいる様子が見られる。

・見通しをもつことが苦手であるが、指示のとおりに作業することができる。

・清掃開始時間を意識することができるが、終了時間に間に合わないことがある。

## ３　指導計画

第１回　10 月　２日　：学校祭の製品作り（練習）

第２回　10 月　３日　：学校祭の製品作り（個人で目標を立てて取り組む１）

第３回　10 月　４日　：学校祭の製品作り（個人で目標を立てて取り組む２）

第４回　10 月　９日　：学校祭の製品作り（ペアで目標を立てて取り組む１）

第５回　10 月 10 日　：学校祭の製品作り（ペアで目標を立てて取り組む２）

第６回　10 月 11 日　：学校祭の製品作り（ペアで目標を立てて取り組む３）（本時）

## ４　「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

①　主体的な学びについて

・数値目標を達成するためにどのように進めたらよいか考え、作業させる。

・ペアでどのように協力したら効率が良いか考えさせ、適宜助言する。

②　対話的な学びについて

・教師に目標や進捗状況を報告する場面を設定する。

・ペアや全体で協力する場面を設定し、必要な声掛けをすることを授業の始めに確認する。

③　深い学びについて

・それぞれの製作のペースを基に目標を立て、作業の見通しをもたせる。

・日誌での振り返りを通して、適切なやりとりについて称賛や助言を行う。

## ５　期待できる指導の効果

・目標を立てて作業に取り組むことで、数値（個数や時間）の見通しがもてることに気付く。

・仲間との協力のためにどのようなやりとりをしたら効果的か、実践を通して知る。

※ 授業を振り返って

| |
|---|
| 数値目標をペアや個人で立てさせたことで、時間を意識して製品作りを進めることができた。教師や仲間とのやりとりの場面を設定したことで適切なやりとりをする姿が見られたが、設定外の場面では、口調が強くなったり、声掛け自体が少なくなってしまったりする様子があった。清掃の場面で仲間との協力の仕方に課題があると感じた。 |

別紙１－２

## ６　本時の展開

| | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の活動 | | 教材教具 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ＭＴ | ＳＴ | |
| 導入<br>５分 | ・挨拶<br><br>・本時の学習内容 | ・日直が挨拶をする。<br><br>・本時の学習の流れを確認する。 | ・一列に並び、姿勢を正しているか確認する。<br><br>・本時の学習内容を説明する。 | ・生徒の動きを見て、挨拶の姿勢を取る。 | |
| 展開<br>８０分 | ・製品作り<br><br>・清掃 | ・本時の目標をペアで決め、報告をする。<br>・ペアでやりとりしながら、製品作りをする。<br>・時間になったら片付けて、清掃を行う。<br>・本時の進捗状況を報告する。 | ・本時の数値目標の報告を受け、板書する。<br>・巡視しながら助言する。質問されたときには答える。<br>・適切な仲間とのやりとりができているか確認し、適宜助言する。<br>・進捗状況の報告を受ける。 | ・数値目標を確認する。<br>・巡視しながら助言する。質問されたときには答える。<br>・適切な仲間とのやりとりができているか確認し、適宜助言する。 | ・粘土<br>・成形に必要な道具類<br><br>・清掃用具 |
| 整理<br>１５分 | ・日誌の記入<br>・振り返り<br><br>・反省・挨拶 | ・日誌を記入し、振り返りをする。<br><br>・全体で反省をし、挨拶をする。 | ・生徒個人の反省を受けて、振り返りを行う。<br><br>・全体の反省を述べる。 | ・生徒個人の反省を受けて、振り返りを行う。<br><br>・全体の反省を述べる。 | ・日誌 |

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

別紙２

# 実践レポート（ＭＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | 学校祭の製品作り | 生　徒 | 窯業科2学年　生徒6名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業実習室 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月 11 日(木)5～6校時 | 指 導 者 | MT:初山　ST1:穴田 |

① 主体的な学びについて

数値目標を自分で立て、その達成に向けてどのように進めたら良いかを考えながら作業を行わせた。指導計画の前半では個人で数値目標を立てさせ、1 回の授業でどのくらい進められるかを実感させた。目標を設定することで、作った数や残り時間を意識する様子が多く見られるようになった。その後の指導計画の後半では、ペアで取り組ませ、効率良く進めるためにどのように協力したら良いかを考えさせた。自分の仕事だけ行えば良いのではなく、相手の仕事の状況を把握することの必要性を感じさせることができた。

② 対話的な学びについて

教師に目標や進捗状況を報告する場面やペアで話し合う場面を設定した。授業で何度か繰り返してきたことで、適切な言葉遣いや態度で対応することができた。しかし、想定外のことが起きたときには、適切な対応についてあまり考えずに話してしまい、ペアでのやりとりの口調がきつくなってしまう生徒がいた。また、授業開始に遅れている生徒が１名おり、結果的にペアの作業にならなかった組があった。対話的な学びを深めるために配慮が必要であったと考える。

③ 深い学びについて

自分の作業のペースと時間を考え、見通しをもって作業することが少しずつできるようになった。また、自分の仕事だけではなく、周囲のことを把握しようとする様子も増えた。しかし、これらのことを製品作り以外の場面ではまだ発揮することができていない。特に清掃の場面では、活動の場所が広くなるせいか、周りを見ることが難しく、自分の作業にだけ集中してしまう生徒が多く見られた。リーダーシップをとれる生徒に頼りがちになっているのが現状である。時間内に清掃を終えるために、全体でどのように協力すべきか更に指導が必要であると感じた。

④ ＳＴの活用の仕方について

今回の学習では MT と ST が担当するテーブルを決め、巡視を行った。制作の様子を見ながら、質問を受けたり、生徒に助言をしたりした。個人の反省の時間では、日誌を用いた反省をテーブルについた教員と授業時間内に行うこととした。このことで具体的な場面や発言について、すぐに振り返ることができ、時間を置かずにタイミング良く助言や称賛を行えることが増えた。今後も効果的な支援の仕方を増やしていきたい。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | 学校祭の製品作り | 生　徒 | 窯業科2学年　生徒6名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業作業室 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月 11 日(木)5～6校時 | 指 導 者 | MT:　初山　　ST1:穴田 |

① 主体的な学びについて

グループごとに数値目標を決める際には、机間指導を行いながら生徒の設定数量が適切かどうかを把握した。生徒自身は、事前の２日間の作業で、１つ当たりのおおよその製作時間を確認しているはずだが、うまく設定できていないグループには声を掛け、目標が妥当かどうか再確認するよう声を掛けた。

② 対話的な学びについて

グループでの作業に入った際には、生徒の主体性を考慮しつつ、必要に応じて助言ができるよう、机間巡視を行い、生徒の作業の様子観察を行った。

道具の準備や清掃活動においては、仲間と積極的なやりとりはできるものの、製作をしていく上で効率の良さを考えたやりとりについては、自主的に行えたグループとそうでないグループがあった。また、相手の提案を尊重して反応できなかったり、自分の主張が強くなったりする生徒もいて、仲間で協力することにつなげられないときの支援方法が課題である。

③ 深い学びについて

前回までの作業での製作をとおして、自分のペースを把握できている生徒は、時間内にいくつ完成させることができるかを自主的に考え、見通しをもって作業することができた。しかし、製作途中で技術的につまずいてネガティブになったり、助言を聞き入れないで自己流のやり方で作業を進めたりする生徒もいた。そういう場面において、どんな対応をすることが実習先や職場では必要なのかを考え、適切な言動がとれるよう支援していきたい。

④ ＳＴとしての動き方について

見通しをもたせる場面では、本時がこのペアでは最終の取り組みということもあり、生徒の自主性を尊重するため、なるべく助言しないで見守るよう努めた。また、ST としては、MT の指示の後、生徒がしっかり指示を把握できているか、指示と異なる作業をしていないかを注視し、適宜助言することがあった。

また、学級での人間関係が作業に影響することも多く、連携がうまくいかないこともあった。今後も、やりとりで不適切な場面を見かけたときには、その場で客観的な感想を伝えて気付かせたり、作業日誌でも触れたりして、適切に人と関わることができる力をさらに身に付けさせていきたい。

別紙４

# 授業参観者アンケート

| |
|---|
| 授業者：　初山　小枝子 |
| 「主体的・対話的で深い学び」についての評価 |
| ○１学年より<br>・具体的に数値目標を設定することで、主体的に取り組むことができていました。<br>・ペアで役割分担、目標設定する場面があり、生徒が主体的に取り組む工夫がされていました。<br>・それぞれの製作のペースで目標設定され、生徒個々に見通しをもって作業できていました。<br>・適宜、教師への報告、確認ができていました。<br>・振り返りで目標を評価する場面が設定され、学びが深まっていました。<br>・今日、何に取り組むか、黒板を使って明確に提示されていました。<br>・どのくらいの数を作るのか、数値が明確であり、ペアで確認できていました。<br>・ペアで連携して作業を行うが、手元に集中していた生徒にだけ「相手の目を見て伝えてあげると良いですね。」と言葉掛けをしていて良かったです。<br>・伝達が上手くいかず、感情的になっている生徒を落ち着かせ、「優しく言いましょう。」「次は優しく言ってね。」と念押しをしていることが良かったです。<br><br>○２学年より<br>・生徒同士のやりとりが多くて良かったです。<br>・数値目標を考え、意識して取り組むことで、ペアで声を掛け合うことができていました。<br>・「主体的・対話的」というのは、とかく「生徒対生徒」の間のことのように捉えられがちですが、「教師対生徒」間でも考えていかなくてはならないことに気が付いた授業でした。初山先生の「一歩引いた立ち位置」が、そのヒントになるように感じました。<br>・生徒の行動の意味(行動の意図や、言葉掛けのポイントなど)を初山先生が「生徒に理解しやすいように整理して伝える」ことで、生徒間の意思疎通が促進されたと思います。<br><br>○３学年より<br>・それぞれの生徒が自分の本時の作業内容をよく理解して作業していました。しかし、ペアでも特に協力するというよりも淡々と作業しているような印象をもちました。<br>・生徒は自分の目標をもって作業していました。<br><br>○管理職より<br>・生徒間で意見が異なったときは、教師からどの部分が異なっているのかを再整理して、それぞれの生徒に伝えることにより、生徒はその後改めて、「○○のようにしましょう」とお互いを尊重した雰囲気でやりとりできたことが良かったです。<br>・生徒たちへ時計を見ながらどのように動けばよいかを意識付けすることで、主体的な学習を進めることができていました。 |

| 授業を通しての感想（良かったところ・改善点、ＭＴ・ＳＴの動きについてなど） |
| --- |
| ○１学年より<br>・先生の受け答えが笑顔で明確な指示で良かったです。<br>・黒板の文字が丁寧で見やすいです。<br>・４月からの授業の流れができているため、生徒たちの理解が早く、速やかに作業に取り組んでいました。<br>・待つ所は待って、生徒に考えさせる時間、取り組み方の工夫をさせていて勉強になりました。<br><br>○２学年より<br>・生徒自身が次に何をすべきかを考えていました。<br>・時間を確認しながら目標を達成しようとしていました。<br>・３つの異なるチームが、異なる内容、目的、数を同時並行で作業するときにスムーズに動けるよう、視覚的な提示ができていました。実際、留意点を振り返らせるときにも使えていました。<br>・ST が生徒にやり方の手本を見せてからやらせていたことで、自分の作業手順を客観視でき、ポイントやコツを再確認して作業の続きができたものと思います。<br>・作業する時の道具の配置について、同じチームのペアを確認すると、生徒によっては雑然としていたように見え、実際にのし棒を落としそうになっていました。個人の道具と同時に共用の道具をどこに置いて作業したら良いかを生徒に考えさせ、効率と安全を考えた配置の仕方が身に付くといいと思います。<br><br>○３学年より<br>・特に指導者が過度に接することなく生徒が進んで作業に取り組むことができており、落ち着いた授業でした。<br><br>○管理職より<br>・生徒がイメージしやすい具体的な助言の内容になっていた点が良かったです。<br>気分が高揚している生徒に対して、穏やかに語りかけて落ち着いて考える状況作りをすることができていました。 |

別紙１－１

# ３学年 産業科 作業学習　学習指導案

| 単元･題材名（授業名） | ツリー型ランプシェードを作る | 生　徒 | 産業科3学年　生徒6名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業実習室 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月4日(木)3～4校時 | 指導者 | MT:田中龍 ST1:森山 ST2:石田 |

## １　授業のねらい

（単元の目標）

・例年、３年産業科が学校祭販売品としている定番商品を製作することができる。

・販売に関わる仲間全員の力を結集して製作することができる。

（本時の目標）

・光窓の配列を考え、その理由やテーマを説明することができる。

・光窓の配列を決めた理由やテーマを聞いて、お互いに評価し合うことができる。

## ２　生徒について

・リーダー的な生徒の言葉掛けを頼りにして、それに応じた行動を素直に取る生徒が多い。

・作業の進行状況を把握して、必要な仕事を判断して行動することができる。

・話し合いでは、発言する生徒の言葉に誘導される傾向がある生徒が少なくなく、自分の意見を出せない場面が見られる。

## ３　指導計画

第１回　10 月２日　：　光窓の配列を考える学習１回目

第２回　10 月３日　：　光窓の配列を考える学習２回目

第３回　10 月４日　：　考えた配列をもとに光窓を開ける学習１回目（本時）

第４回　10 月５日　：　考えた配列をもとに光窓を開ける学習２回目

## ４　「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

①　主体的な学びについて

・窯業作業で作る製品の中で唯一、自分でデザインを考えて取り組む製品であることを意識させる。

・学校祭の販売品であることを考え合わせて、落ち着いた雰囲気のあるデザインにすることを心掛けさせる。

②　対話的な学びについて

・生徒が自ら考えた光窓の配列について、その理由を説明する時間を設定する。

・説明された光窓の配列について、仲間同士で評価する時間を設定する。

③　深い学びについて

・仲間が説明した理由を聞いて理解し、新たな配列を考えることができるように指示をする。

・仲間が考えた配列をヒントにして、新たな配列を考えるように指示をする。

## ５　期待できる指導の効果

・作り上げた製品を入れる箱のデザインや包装紙を決める場面では、その製品がもつイメージに合うように考えるようとすることができるようになる。

・仕事を進めていく時に、仲間がしている取組方法を聞いたり、教えてもらったりすることで、自分が知らなかった方法を取り入れることができるようになる。

・仲間の仕事の仕方で効率の良い方法を取り入れて仕事を進めていくうちに、自分でも工夫して仕事を進めてみようと考えるようになる。

※ 授業を振り返って

３年間で唯一、デザインを考えて製品を作る作業を前にした生徒の生き生きとした表情を見て取ることができた。作業を仕事という言葉で置き換えると、生き生きとした表情で仕事をしている姿であった。製品として「買ってもらえる・買ってもらえない」という結果を抜きにして考えると、楽しく仕事をすることができることが幸福であるということができるのではないかと思われる。また、お互いのデザインを批判することなく、良い点や素晴らしいと感じた点を評価し合う場面があり、それぞれの生徒で評価の視点が異なっているなど、生徒の持つ可能性も見ることができた。さらに、その評価を基にして新たなデザインを考えようとする姿も見ることができた。

別紙１－２

## ６　本時の展開

| | 学習活動 | 生徒の活動 | 教師の活動 | | 教材教具他 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ＭＴ | ＳＴ | |
| 導入<br>15 分 | ・挨拶<br><br>・本時の学習内容 | ・日直の号令に従い、挨拶をする。<br><br>・本時の学習内容を理解する。<br>・道具の用意をする。<br>練習用フリーカップ　ポンス<br>水の入ったボウル　雑巾　針<br>空のボウル　なめし皮　など | ・日直に指示を出し、気を付けの姿勢を取っているか促す。<br>・本時の学習内容を説明する。<br>・用意する道具について指示をして、作業場所を提示する。 | ・日直の号令で挨拶をする姿勢を取る。<br>・生徒の表情等から、補助的な説明をする。 | |
| 展開<br>55 分 | ・ランプシェードの光窓の図案 | ・製品の特徴を理解する。<br><br>・光窓の配列を積極的に考える。<br>・光窓の図案を書く。<br><br>・各自の図案を発表する。<br>・発表された図案について意見を述べる。<br>・仲間の発表を聞いて、新たな配列を考える。 | ・製品の特徴を説明する。<br>・光窓の配列を自分で考える必要性と楽しさを伝える。<br>・光窓の形を指示して図案を書かせる。<br><br>・図案を発表させる。<br>・発表された図案について各自に意見を述べさせる。<br>・見聞きした仲間の発表から視点を広げることができるような言葉を掛ける。 | ・理解の程度を確認し、補助的な説明を加える。<br><br>・光窓の配列を考える支援をするための言葉掛けをして図案を書かせる。<br>・生徒の気持ちを高められる言葉を掛ける。<br><br>・新たな配列を考えられるよう、視点を広げることができるような言葉を掛ける。 | ・光窓のためのプリント<br>○光窓のデザインが必要<br>○デザインを考える<br>○売り物である<br>○使いたいと感じさせる |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ・光窓を開ける練習をする。<br>・自分で考えた配列に従って光窓を開ける。<br>・配布されたポンスを使って光窓を開けて、余分な粘土を取り除く。<br>・光窓を開けたら、本体裏側の可能な部分をなめし皮で平らにする。<br>・新たな配列を考えながら、光窓を開ける。 | ・製品を持つ手に力を入れ過ぎないように指示をする。<br>・配布されたポンスのみを使わせる。<br>・余分な粘土は針を使って取り除くように指示をする。<br>・なめし皮の使い方の演示。<br>・新たな配列を考えて、光窓を開けるように指示をする。 | ・光窓を開けるため、各生徒に適した言葉掛けや演示を行う。<br>・針やポンスの扱い方に最大の注意を払う。<br>・配布されたポンスの本数を常に確認するなど、最大限の注意を払う。<br>・なめし皮の使い方の演示。<br>・新たな配列を考えられるように、生徒と一緒に考えて支援する。 | |
| 整理<br>30 分 | ・片付け<br>・振り返り<br>・反省<br>・挨拶 | ・使った道具を時間内に片付けて掃除を行う。<br>・学習内容の振り返りをする。<br>・本時の反省として、先生方からの評価を聞く。<br>・日直の号令に従い挨拶をする。 | ・時間内に片付けるよう指示をする。<br>・次回の学習につなげるため、学習した内容について振り返りプリントを使わせる。<br>・本時の良い点や改善点を述べる。<br>・挨拶をする。 | ・時間内に片付けるように言葉を掛ける。<br>・発表した内容への感想や、学習への取り組み態度等について称賛できる点を言葉に出して伝える。<br>・本時の良い点や改善点を述べる。<br>・挨拶をする。 | ・振り返りプリント |

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

別紙２

# 実践レポート（ＭＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | ツリー型ランプシェードを作る | 生　徒 | 産業科3学年　生徒4名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業実習室 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月４日(木)５～6校時 | 指導者 | MT:田中龍　ST1:森山　ST2:石田 |

① 主体的な学びについて

今回取り上げた題材「ツリー型ランプシェードを作る」は産業科３年生の題材であり、産業科生徒たちが自分で考えたデザインで作り上げることができる唯一の製品である。この製品は学校祭での販売品として３学年になった生徒にとって楽しみにしている製品でもある。生徒にとっては自分がデザインした製品が学校祭の販売会場でお客様が手に取って購入していく様子を思い描きながら、意気揚々としてデザインを考える姿を目の当たりにできた今回の授業において、生徒の主体的な学びを迎えることができたと考えられる。

② 対話的な学びについて

ランプシェードの光窓の配列を考え、配列のテーマや理由等を交えて仲間の前で説明することを聞いた他の仲間は、説明した仲間の考え方や目の付け所を感じ取ることができた。また、説明をしてくれた仲間に対して感想を述べ合う場面を設定して、仲間が考えたテーマや理由に対して称賛する言葉で表現するなど、仲間同士の関わり合いがあり、お互いの健闘をたたえ合う姿が見て取れた。このことから、対話を通して学び合うことができたと考えられる。

③ 深い学びについて

今回は３名の生徒で今回の授業を行った（１名欠席）が、お互いのデザインや考え方を説明したり説明を聞いたりする中で、説明された視点や考え方を派生して新しいデザインや配列を考えたり、自分が説明した内容を称賛されたことで「もっとデザインを考えてみよう」という気持ちが出てきたりして、再び考え始める姿が見えるなど、お互いの説明が良い刺激となって深い学びにつながっていると考えられる。

④ ＳＴの活用の仕方について

デザインを考えて図案化している様子を捉えて称賛の言葉掛けをしたり、生徒が各自考えた光窓の配列を含めて発表する時と感想を述べた時の内容を表記したりするなど、MT として生徒の反応を確かめながら授業を進めながらすることがなかなか難しい部分に取り組んでいただいた。結果的に、表記した内容を使って生徒の学習活動を振り返ったり深めたりすることができ、生徒の「主体的・対話的で深い学び」に効果のある支援ができたと思われる。可能であれば、この部分の取り組みを MT がすることができれば、ST 活用の方法が増えていくものと思われる。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | ツリー型ランプシェードを作る | 生　　徒 | 産業科3学年　生徒4名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　　所 | 窯業作業室 |
| 日　　時 | 平成 30 年 10 月 4 日(木)5～6校時 | 指 導 者 | MT:田中龍　ST1:石田　ST2:森山 |

① 主体的な学びについて

自分でデザインを考えて取り組む製品であることを意識させることができるように、事前に MT とともに日常生活の中からデザインを考えるためのヒントがあると助言を行った。そのため、生徒自ら日常生活からヒントを得たデザインを考えることができたり、購入者の意見を聞いて考えることができたりしたため、主体的な学びに結び付けることができた。

② 対話的な学びについて

生徒が製品をデザインしている最中も意見や感想を述べることができる雰囲気を作るために、デザインを見て感想や良いところを述べた。それにより、生徒間で意見や感想を述べることが見られた。また、話しやすい雰囲気のためか、生徒間で道具の使い方について話す場面も見られたため、対話的な学びに結び付いた。

③ 深い学びについて

実際に製品に光窓を開ける練習を行い、自ら考えて道具の扱い方の難しさや実際に計画した光窓の配置を実現することができるのかを探求することができた。また、自ら考え、気付くことができるような言葉掛けを行った。

④ ＳＴとしての動き方について

不適切な道具の扱い方をする生徒がいるため、危険が無いように注意しながら机間指導を行った。また、生徒間の会話を増やすために教師からの意見や感想を述べたり、生徒の意見や感想に称賛や賛同したりした。

別紙３

# 実践レポート（ＳＴ用）

| 単元･題材名（授業名） | ツリー型ランプシェードを作る | 生　徒 | 産業科3学年　生徒4名 |
|---|---|---|---|
| | | 場　所 | 窯業作業室 |
| 日　時 | 平成 30 年 10 月 4 日(木)5～6校時 | 指導者 | MT:田中龍　ST1:森山　ST2:石田 |

① 主体的な学びについて

ツリー型ランプシェードのデザインを、一人一人が主体的に考えることができた。デザインを考える際にはテーマを設けて、テーマに沿ったデザインを考えて仲間に発表することもできた。デザインに沿ってポンスで型抜きを行う作業では、自分のデザインが実現可能であるかどうかを、実際に型抜きを行うことで確かめることもできた。さらに、模様の距離感やひび割れしないような型の抜き方などを考えて工夫することもできた。

② 対話的な学びについて

仲間のデザインを見ることで新たな視点を得て、自分のデザインを再度考えるにあたって参考にすることができた。互いのデザインについて良い点を褒め合ってアドバイスをすることで、それぞれが自分のデザインに自信がもてるようになった。また、受けたアドバイスを基に、より学校祭で販売することを意識したデザインを考えることができた。

③ 深い学びについて

仲間のデザインを見ることで、新たな配列を考えることや、自分の発想にはない表現を取り入れることで、表現の幅を広げることができた。仲間がポンスで型を抜く様子を見て、上手な抜き方を真似したり、上手くいかないことを話し合ったりと、自分から見たり、聞いたりして考えることができた。ポンスで実際に型抜きをしたことで、型抜きの難しさを理解したり、光窓の距離感などを考えたりすることができた。距離感によっては、ランプシェードにひびが入ってしまうことを理解し、適切な距離感やデザインを再度考え直すことができた。

④ ＳＴとしての動き方について

生徒が発表した内容や仲間からのアドバイスをホワイトボードに書き留めて見せることで、再度デザインを考える際に、アドバイスを思い出しながらデザインを描くことができた。デザインを考えている際には、具体的にランプシェードの形を見せて、横幅や高さなどを確認させながらデザイン描きに取り組ませることができた。また、称賛の声を増やし、自信をもって取り組むことができるようにした。

道具の準備など、慣れている場面ではなるべく言葉掛けを減らして、良い行動が見られた際には褒めるように努めた。

別紙４

# 授業参観者アンケート

| |
|---|
| 授業者：　田中　龍右ェ門 |
| 「主体的・対話的で深い学び」についての評価 |

○１学年より
・意欲的に自分でデザインを考えてランプシェードの光窓あけができていました。
・教師の指示により、学校祭の販売品であることが意識され、発想豊かにデザインを考えることができていました。
・自分で考えたデザインを説明する場の設定により対話的な学びの工夫がされていました。また、説明されたデザインを仲間同士で評価し合うことで対話的な学びがより深まっていたと思います。
・仲間のアイディアを参考に新たなデザインを考えることができるよう工夫されていたため、生徒一人一人の豊かな発想と学びが深まっていたと思います。
・各自の発表に対して、みんなからの意見をもらうというのは、深い学びになると思います。自分で気付かなかったことを他の人から言ってもらうことで、大きな気付きにつながると思います。
・生徒だけではなく、教師からも良い所の評価があるとよりよいと思います。美術だと人数が多いので（24 人）、一人一人の生徒に丁寧にできないが、３人の生徒というのは特別支援学校ならではの一人一人にあった支援ができるので良かったです。

○２学年より
・少ない人数の中で「対話的な学び」はなかなか設定しにくかったのではないかと思いますが、生徒のアイディアが他の生徒に取り入れられていたことなどから、相互の意見を通して、より良いものを作ろうとする姿勢が生徒の中に育っていたと言って良いと思いました。また、３名の生徒とも、課題に正対して自分の考えやアイディアを出すことができていたので「主体的な学び」もできていたものと考えます。以下、気が付いた点について記述します。
① 穴開けパターンの描き方のポイントは、生徒間の対話を設定して導き出すことができるかもしれないと思いました。　　↓
・模様は直線ではなく半曲線上に配置すること。
・あける穴の大きさの違い。
② お互いに，意見交換した意見のどこをどのように取り入れたのか、各自に説明させてもいいかと思いました。（もちろん「自分の考えだけでデザインする判断をした」という結論でも良いのですが。）
③ 穴を開けるときのコツを教え合う場面等も生徒相互間で設定できたかもしれないと思います。
「主体的な学び」
・生徒それぞれ考えがしっかりとありました。案が確立しているので、主体的に話し合いが成り立っていました。
「対話的な学び」
・自分の意見がしっかりあり、説明がスムーズにできていました。ただ、意見するのではなく同調の姿勢はとても良かったです。
「深い学び」
・仲間の良い所（意見）を聞いて、さらに良いアイディアを考えていて深い学びにつながると感じました。

○３学年より
・仲間の意見を聞くことで自分が思いつかなかったデザインがたくさんあることを知ることができ、考

えの幅が広がると思いました。今日の授業では、その活動が含まれていたので生徒の学びになっていると感じました。

「主体的な学び」

・「自分たちの図案が採用されて商品化する。」という説明によって、生徒たちにとって見通しをもつことができ、強い動機になったと思いました。また、積極的に図案を描くことができていた。

「対話的な学び」

・発表では、生徒一人一人分かりやすく説明することができており、発表することに慣れているように感じました。

・仲間の図案の良さを見付けて、それぞれが自分の言葉で伝えることができていました。

「深い学び」

・仲間の意見をしっかりと覚えて、新しい図案に反映させることができていました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、ＭＴ・ＳＴの動きについてなど）

○１学年より

・生徒の豊かな発想が生かされた授業展開になっていて良かったです。

・和やかな雰囲気の中で落ち着いてできる作業が良いと思いました。振り返りも書きやすいように工夫されていて勉強になりました。お疲れさまでした。

○２学年より

・図案に“テーマ”を用いていて、生徒も自分の考えをもちやすく、良いと思った。

・作業時間の明示や、点灯したランプを実際に見せるなど、体験的・視覚的な提示の工夫があり、分かりやすかったです。

・ST,MT とも、生徒の気付きのための具体的な言葉掛け、称賛の言葉掛けが多く、よかったです。

・今描いているランプシェードのデザインは誰のためのものなのか、を意識させる必要があるかと思います。自分たちのための物ならば「自分たちが 20 期の卒業生だから 20」というデザインはあり、ですが、販売するものとなると、買う側にとっては「20」は意味のない数字になるのではないでしょうか。

○３学年より

・デザインで工夫した点を発表したときに ST がホワイトボードに意見をまとめており、振り返りがしやすいと感じた。

・実演し、道具の正しい使い方を見せたり、あけた穴がどのようになっているのかを見せたりすることで、正しい作業方法と間違った作業方法をしっかり理解させることができていると思いました。

＜良かったところ＞

・導入での道具の用意など、生徒の動きがとてもスムーズで手早かったので、日頃から一貫した御指導を行っていると感じられました。

・生徒の発表事項を ST が板書に残したことが良かったと思いました。新たな配列で図案を書く際に、とても書きやすそうでした。

＜改善点＞

・仲間からの意見だけではなく、質問も取り入れることで会話のキャッチボールが生まれ、より対話的になると思いました。